

- ① 小寺病院長退任ご挨拶
最先端の診療・研究を続け、地域の未来を支えていく。
退職のご挨拶
- ② 名大病院臨床研修医のご紹介
健康講座「加齢黄斑変性との付き合い方」
- 令和5年度鶴舞公開講座を開催
ナディック通信
特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
かわらばん HP のご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

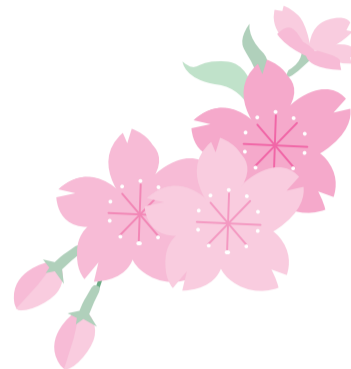
- 基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

TOPICS ① 小寺病院長退任ご挨拶 最先端の診療・研究を続け、 地域の未来を支えていく。



2024年3月をもって小寺泰弘病院長が、病院長を退任します。
退任のご挨拶として、これまでの取り組みや今後の名大病院への期待をテーマに、お話を伺いました。

コロナ対応と日常診療に全力で向き合って

この度、病院長を退任することになりました。2019年の就任以来、患者さんや地域の方々など多くの皆さまから温かなご支援をいただき、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

就任以後の5年間は激動、苦闘の日々を過ごしてまいりました。財政的に厳しい状況下で就任し、病院経営の改善に努めていたところに襲いかかってきたのが、新型コロナウイルス感染症の猛威です。当院は主に重症患者さんを受け入れるため、コロナ専用の集中治療室と病棟を設けると同時に、救急科を中心に全診療科からスタッフが集結し全力でコロナ治療に取り組んできました。

他方、高難度のがん手術や薬物療法など当院で行えない日常診療にも、可能な限り対応してきました。今も感染は続いています。当時のひっ迫した状況を優秀なスタッフの献身的な努力により乗り越えられたことを誇らしく思っています。

高度な診療、研究活動を支える基盤を整備

この間、診療面では全国に先駆けて希少がんセンターを開設し、診療科を越えた患者さんへの対応、地域の医療機関への情報提供に力を入れてきました。また、高度な医療提供を支えるために医療機器総合管理部を設立し、必要な機器の購入・メンテナンスを行う制度を整え、最先端の機器を使った診療・治療を推進しています。

医療安全に対しても積極的に取り組み、今ではどんな些細な事象も報告する文化が醸成されています。そのため一見、医療事故の報告件数が多いのですが、それは安全のためにあらゆる情報を報告・共有しているからです。今後も患者安全を第一とする診療を追求していきます。研究面では、臨床研究中核病院として全診療科の研究活動を支援する部門を設



け、日本発の医薬品や治療法の開発に取り組んできました。小児科のCART細胞療法、新たな分子標的治療薬など複数の研究シーズが注目されており、これからの発展におおいに期待しています。

これからも地域の患者さんを支える皆として

最後に、一人の医師として名大病院にお願いしたいのは、今後も引き続き地域医療を支える最後の砦として活動いただきたいということ。実は愛知県は人口比で見ると医師が少なく、岐阜や三重、静岡など中部地域全体では全国平均を下回る医師少数地域です。今後は中部地域全体で連携して医療を支える必要も出てくるでしょう。現在も地域医療において名大病院は大きな役割を担っていますが、次代においても中心となって、地域の患者さんを支えてほしいと心から願っています。

患者さん、地域の皆さまには当院の活動に引き続きご理解・ご支援をいただければ幸いです。末筆ではございますが皆さまのご多幸をお祈りし、退任のご挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

形成外科長／教授 亀井 譲



1998年に赴任して、26年間名古屋大学医学部附属病院にお世話になりました。うち14年8か月を教授職という大役を承り、何とか無事に退任することができました。これもひとえに皆様方のおかげと思っております。悪性腫瘍切除後の再建を中心に、難治性潰瘍や先天異常の手術を多く行い、名古屋大学でしかできない手術を多く手掛けてきました。大きなトラブルもなく無事やってこられたのは、手術室、病棟、そして外来の優秀なスタッフのおかげと思っております。名古屋に生まれ、母校で退任できること、とても幸せに感じます。長い間ありがとうございました。

麻酔科長／教授 西脇 公俊



1986年4月に当院着任以来、途中留学・赴任期間を除いて、合計33年間近く麻酔科医として、麻酔、集中治療、ペインクリニック領域で勤務させていただきました。本年3月に定年退職を迎えます。この間、安全で最新最良の医療を提供すべく励んでまいりましたが、院内のすべての職員の皆様のご協力があったことはじめて取り組めたものと心から感謝申し上げます。また担当させていただいた患者さんからは、多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、私の退任の挨拶とさせていただきます。

薬剤部長／教授 山田 清文



この3月末をもちまして名大病院を定年退職いたします。在職中は公私ともども一方ならぬご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。
2007年に薬剤部長に就任して以来、薬学・薬剤師の視点から薬物療法を支援し、より効果的で安全な薬物療法が提供できるように薬剤部の業務改善と教育・研究に取り組んでまいりました。特に薬学部のない名大病院では人材育成が重要と考え、薬剤師の資質向上に向け卒業臨床研修プログラムを作成し、全国から薬剤師レジデントを受け入れてきました。研修修了後、半数以上がそのまま職員として残り、現在、部員の40%以上は薬剤師レジデント修了者です。病棟研修では各診療科のドクター、看護師など多くの皆様にお世話になりました。今後ともよろしくお祈り申し上げます。

特集 TOPICS ②

名大病院 臨床研修医のご紹介

名大病院では医科歯科の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みを紹介します。

一人前を目指して 日々勉強中!



馬場 脩 (医科研修医)

私は現在、麻酔科の診療に携わらせていただいております。麻酔科は全身管理をする科であり、一つ一つの行動が患者さんの命を左右する大変責任の重い科となりますので、日々精進しております。

医師として必須である手技等の練習や、各科でそれぞれ異なる業務や手術等に参加させていただく中で、今後どの科を専攻するのかを考えながら、様々なことを学ばせていただく毎日です。医師として働き始めて1年目ということで不慣れなこともあります。研修医とはいえ既に医師としての国家資格を持つ者として、日々細心の注意を払って業務に従事し、自己研鑽に努めてまいります。

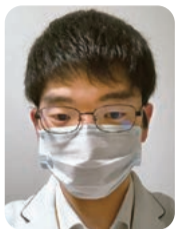


藤原 有道 (医科研修医)

私は現在、麻酔科で研修中です。手技・薬剤の使い方から事務作業のコツ等々、幅広い業務に対して熱心にご指導いただき、恵まれた環境で日夜研修に励んでいます。

研修で苦労していることは、国家試験と実臨床の隔たりを埋めることです。試験では正解の選択肢を選べばOKですが、実際の医療現場では何をいつ行うのかを具体的に決めるため、上級医や他職種の方と連絡を取り合っ…とギャップが大きく苦労しています。

チーム医療の一員として患者さんによりよい医療を提供できるよう日々研鑽を積んでいきたいと思っております。



中嶋 悠斐 (歯科研修医)

私は現在、歯科口腔外科の外來業務に携わり、主に初診患者さんの診察、教員の先生方の下で歯科治療やその補助をしております。入院中の方や全身疾患を有する方の一般的な歯科治療から口腔外科の疾患まで幅広く学ぶことができる環境で、充実した研修医生活を送っております。特に、有病者の外科処置時には、その疾患に応じた問診内容や注意事項についても学ばせていただいております。

いつもご指導して下さる先生方、歯科衛生士・歯科技工士の方々には、心より感謝いたします。歯科医師として少しでも皆さんのお役に立てるよう、日々精進してまいります。



講座 健康

加齢黄斑変性との付き合い方

眼科 病院助教 太田 光

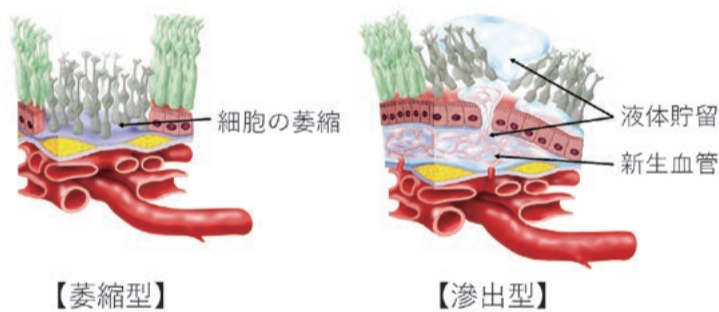
加齢黄斑変性は高齢者に多い眼の病気です。物を見る中心部である黄斑の加齢が原因とされ、視野中心部のゆがみなど視力が低下し、症状が進むと失明することもあります。2040年には現在の患者数の1.5倍になると試算されています。

この病気には、黄斑に新生血管ができ、そこから水分が漏れてたまったり、出血を起したりする「滲出型」と細胞が傷む「萎縮型」があります。滲出型は治療可能ですが、萎縮型にはまだ効果的な治療法がありません。

滲出型の治療には抗VEGF薬使用の注射が効果的で、視力の維持が可能になってきました。しかし、完全な回復を保証するものではなく、自覚症状の改善が得られない場合もあります。また、定期的なフォローアップが必要で、通院の中断は病状を悪化させる可能性があります。注射は高額ですし、通院回数も多く大変な治療ではありますが、長期的な視点で通院を継続することが大切です。

日常生活での対策としては、抗酸化ビタミンを含んだサプリメントの内服や禁煙、生活リズムや食習慣の見直しが重要です。自分でゆがみの自覚がないかチェックするのも効果的です。治療法の研究は進んでおり、将来的には新しい治療オプションが期待されます。病気と上手に付き合い、視力をできるだけ維持していきましょう。

加齢黄斑変性の黄斑部変化



【萎縮型】

【滲出型】

令和5年度鶴舞公開講座を開催

2023年12月9日(土)に、令和5年度名古屋大学鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、平成17年度から、医学部と附属病院が共催で、年1回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。

今年度は、「アフターコロナの健康づくり」をテーマとして、5つの講演を行いました。

いずれの講演でも、先生方がわかりやすく紹介し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。当日は、会場参加・オンライン視聴合わせて、20代~90代の幅広い年齢層の約100名が受講しました。受講者からは「わかりやすく、大変参考になった。来年以降もぜひ参加したい」という声が多数聞かれました。



Nagoya Disease Information Center ナディック通信



名大病院公式 YouTube チャンネル

ナディックの一部利用再開について

患者情報センター(広場ナディック)は2024年3月1日より書籍やパンフレットの閲覧、DVD視聴の利用を再開いたしました。

感染対策のため、利用していただける時間が決まっております。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご了承くださいませようお願い申し上げます。



〈利用可能日〉入院患者さん：月・水・金曜日 / 外來患者さん：火・木曜日
 〈利用時間〉平日10時~13時(休日祝日年末年始を除く)

肝臓病教室は引き続きオンライン(名大病院公式 YouTube チャンネル)で公開しています。当院・肝疾患診療連携拠点病院ホームページのお知らせ欄からご確認いただけます。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟1階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

